

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担当	福祉サービス支援部会		関係課	福祉課
項目	1 グループホーム整備への支援			
事業内容	グループホームを設置する事業所に対し、開設の支援を行うことにより、新たなグループホーム及び短期入所の設置を目指します。 前期に1か所、後期に2か所の計3か所の開設を目指します。			
実施時期	前期	○	後期	○
年度ごとの目標	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	
	作業部会を設置する。	・ニーズ等の調査を実施する。 ・土地の確保及び設置内容等について協議する。	後期の目標である2か所の開設に向けて協議する。	
期待できる成果	具体的な内容について、集中的に取り組み、事業の着実な進行が期待できる。	ニーズ調査を実施することで、必要な整備数が把握できる。また、新規参入への課題について知ることにより、整備数増加に向けて考えることができる。	達成時期を早められることも期待できる。	
進捗状況	作業部会を設置し、第1回作業部会を開催した。そこで、今後の取組等について確認できた。	定員5名のグループホーム1か所開設。	平成30年度に開設予定である事業所と協議を行った。	
自己評価	B	完了	A	
自己評価の理由	作業部会を設置し、第1回を開催することができたため。	グループホーム(定員5名)が1か所開設されたため。	平成30年度にグループホームが1か所開設されることとなった。	
二次評価	B	完了		
コメント	・ながふく障がい者プランと合わせ5名定員を1か所開設とする。 ・ニーズ調査の実施方法を検討すること。	最終目標である3箇所設置が妥当であるか判断するためにも、ニーズ調査の実施を検討すること。		

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担 当	福祉サービス支援部会	関係課	福祉課
項目	2 グループホームの体験利用の促進		
事業内容	近隣市で実施しているグループホームの体験利用についての研究を進め、本市にあった仕組みについて検討し、前期期間中に体験利用の事業を開始します。		
実施時期	前期	○	後期
	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度
年度ごとの目標	作業部会を設置する。	近隣市の体験利用について研究し、本市の取組方法について決定する。	体験利用の事業の開始について、地域生活支援拠点の整備を鑑みながら、既存(今後開設する)事業所と協議していく。
期待できる成果	具体的な内容について、集中的に取り組み、事業の着実な進行が期待できる。	他市の状況を調査することで、現状の課題や良い例を知ることができ、本市の取組に応用できる。	具体的な協議に入っていくことで実施に向けて着実に進んでいくことが期待できる。
進捗状況	作業部会を設置し、第1回作業部会を開催した。そこで、今後の取組等について確認できた。	地域生活支援拠点の機能の内の1つとして掲げられている「体験の機会・場」として整備を予定しているため、先進地の事例を研究した。	作業部会を開催し、「長久手市障がい者地域生活体験グループホーム事業」の実施について協議を行った。
自己評価	B	B	B
自己評価の理由	作業部会を設置し、第1回を開催することができたため。	地域生活支援拠点の整備に関する事例を収集できたため。	近隣市の体験事業を参考に本市における取組を検討することができたため。
二次評価	B	B	
コメント			

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担当	事務局会議	関係課	福祉課
項目	3 基幹相談支援センターの設置		
事業内容	その人のライフステージにあった適切な支援を行い、一貫した総合的な支援ができるよう、現在ある「障がい者相談支援センター」の相談支援体制を強化し、基幹相談支援センターを設置します。		
実施時期	前期	○	後期
	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度
年度ごとの目標	周辺自治体の状況について調査する。	現在の障がい者相談支援センターに、どのような機能を付加して基幹型へ移行するのか決定する。	基幹相談支援センターの機能及び設置方法について決定し、平成30年4月から設置する。
期待できる成果	他市のメリット、デメリットを知ることにより、本市に合った内容を検討することができる。	平成29年度中の設置に向け、具体的に協議できる。	平成30年4月の設置に向け、具体的に協議できる。
進捗状況	周辺自治体の状況について調査を行った。	イメージ案を基に協議を行った。	主な機能や役割等についてとりまとめを行った。
自己評価	B	C	B
自己評価の理由	今年度の目標を達成することができ、翌年度に具体的な話し合いを進めることができるため。	イメージ案を示した時期が年度末であり、まだ機能付加の内容決定まで至っていないため。	平成30年4月に設置したため。
二次評価	B	B	
コメント		イメージ案を用いて各関係者と合意を図りながら協議できているため。	

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担当	事務局会議	関係課	福祉課
項目	4 個別訪問調査の実施		
事業内容	障害者手帳を所持しているが、福祉サービス等の利用がない人について、個別訪問調査を実施します。		
実施時期	前期	○	後期
年度ごとの目標	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度
	障害者手帳を所持しており、福祉サービス等の利用がない人について抽出する。	抽出結果より改めて対象者をどこまでとするのか、また実施方法をどのようにするのかを決定し、個別訪問調査を実施する。	継続
期待できる成果	地域とつながりがなく孤立してしまっている人を見つけ、支援することができる。	抽出作業を行い対象者の人数を把握することができ、実施方法等について具体的に協議できる。	地域とつながりがなく孤立してしまっている人を見つけ、支援することができる。
進捗状況	個別訪問調査の対象者をどの範囲とするのか、具体的に協議を行った。	実施方法等について決定し、個別訪問調査を実施した。	個別訪問調査を実施した
自己評価	C	B	B
自己評価の理由	対象者の範囲についてはおおよそ決定することができたが、実施方法等についてまだ具体的に協議できておらず、抽出ができなかったため。	個別訪問調査を実施したため。	個別訪問調査を実施したため。
二次評価	C	B	
コメント	実施スケジュールを進行管理シートに記載すると良い。		

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担 当	児童教育支援部会	関係課	子育て支援課
項目	5 乳幼児期からの療育支援体制の整備		
事業内容	<p>発達障がい等の障がいのある児童に対する総合的な療育施設として、「児童発達支援センター」を後期に整備します。</p> <p>その整備にあたり、まずは前期に療育支援体制の整備を図り、発達障がいのある児童への支援や未就園児から一貫した支援体制の構築を図ります。</p>		
実施時期	前期	○	後期
	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度
年度ごとの目標	現在ある療育支援体制を整理し、本市の療育支援体制基本構想としてとりまとめる。	引き続き基本構想の策定を行うとともに、不足している療育支援について、どう補っていくか検討する。	途切れのない一貫した支援体制を構築する。
期待できる成果	療育支援体制基本構想の策定に向け、既存の社会資源の数・内容を確認することで、より実情に即した連携体制の在り方について考えることができる。	療育支援体制の検討を行うことで、ライフステージに応じた必要な支援内容を把握することができるとともに、既存の社会資源間の連携の現況及び問題点の共有ができる。	関係機関が情報共有を密に行い、方向性を共有し連携することで、乳幼児期から一貫した支援を提供することができる。
進捗状況	(仮称)長久手市療育支援体制基本構想を作成し、構想の基本目的・目指すべき方向の共有に努めるとともに、既存の社会資源状況の確認を実施した。	「長久手市療育支援体制基本構想」の取りまとめを実施。また、地域の社会資源状況を鑑み、本部会の役割を再検討し、平成29年度の部会方針について協議した。	児童発達支援センター設置に係る作業部会を実施し(7回)、「長久手市児童発達支援センター運営基本計画」を策定した。
自己評価	B	B	B
自己評価の理由	現在の社会資源状況及び連携体制の確認は実施できた。	「長久手市療育支援体制基本構想」が取りまとめられ、現況の問題点に基づき今後の部会方針の整理ができた。	「長久手市児童発達支援センター運営基本計画」を策定することができた。
二次評価	B	B	
コメント			

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担 当	児童教育支援部会	関係課	子育て支援課
項目	6 各保育園等への巡回相談		
事業内容	発達障がい等に対する支援体制の充実を図るため、発達障がい等に関する知識のある相談支援員が各保育園等を巡回し、保育士等への助言や相談支援などを実施します。		
実施時期	前期	○	後期 継続
年度ごとの目標	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度
	派遣依頼のあった保育園へ巡回相談を実施	市内保育園全園への定期巡回相談を実施	保育園及び幼稚園を含めた全園へ定期巡回相談を実施
期待できる成果	保育機関等との連携が容易となることで、潜在的にある相談案件に早期に対応することができることで、保育機関等と役割を分担しながら支援することができる。	保育・教育機関との連携の強化により、より適切な支援環境の整備が実施できる。	定期巡回相談の実施箇所を増やすことで、障がいについての理解がさらに広まり、早い段階から相談や支援につながる。
進捗状況	保育園・幼稚園9園、小学校2校への訪問を実施(19件)。	保育園・幼稚園6園、小学校1校への訪問を実施(13件)。	保育所等巡回相談としての訪問実績は無いが、既に福祉サービス等を利用中の対象者に関する関係機関との連携は常態化している。
自己評価	B	B	B
自己評価の理由	保育機関における支援センターの周知、必要に応じた活用がされた。	特に保育機関における支援センターの周知が進み、必要に応じた活用が進んだ。	福祉サービスの周知が進み、家族からの直接相談が増えていることから、保育所等巡回相談の目的の確認・役割の再検討が求められている。
二次評価	B	B	
コメント	目標を保育園のみとせず、小中学校を含めたらどうか。		

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担 当	児童教育支援部会		関係課	教育総務課
項目	7 スクールソーシャルワーカーの設置			
事業内容	障がいがあっても安心して学校に通えるよう、総合的な相談支援のできる体制を目指し、スクールソーシャルワーカーを配置します。			
実施時期	前期		後期	○
	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	
年度ごとの目標	—	スクールソーシャルワーカーを配置し、関係機関との連携を行い、総合的な相談支援を行う。	関係機関との連携を強化し、よりきめ細かい相談支援を行う。	
期待できる成果	—	学校において、ハード面だけではなく、ソフト面からも支援する体制を整えることで、安心して学校に通うことができる。	学校以外での相談窓口ができたこと及び連携体制が整ったことで、よりきめ細やかな対応ができるようになる。	
進捗状況	平成28年度からの配置に向け、予算要求を行った。	再任用職員、嘱託職員の2名をスクールソーシャルワーカーとして配置した。	再任用職員、嘱託職員2名(精神保健福祉士及び教員免許所有者)、計3名をスクールソーシャルワーカーとして配置した。	
自己評価	B	B	B	
自己評価の理由	翌年度からの設置に向け、準備を行うことができたため。	スクールソーシャルワーカーを配置し、学校を巡回するとともに、支援が必要な場合は、関係機関と連携を行うことができたため。	精神保健福祉士の資格を持つスクールソーシャルワーカーを配置することで、社会福祉等の専門的な見解から支援を行うことができたため。	
二次評価	B	B		
コメント				

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担 当	就労支援部会	関係課	みどりの推進課、福祉課
項目	8 農業を活用した雇用機会の拡大(農福連携)		
事業内容	障がいのある人の雇用機会を拓げるため、また、人手不足により耕作放棄地となっている農地の有効活用のため、他自治体で成功事例の多い農福連携についての取組を推進し、農業を活用した雇用機会の拡大を図ります。		
実施時期	前期	○	後期 継続
年度ごとの目標	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度
	農業者のところへ障がいのある人が農業の体験に行く。	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地を視察するなど先進的取組を学ぶ。 ・農業者と障がいのある人が役割分担を行い、支援を受けながら農作物を作る。 ・障がい特性に応じた業務を判別する。 	障がい福祉事業所が自身の力によって農作物をつくり、販売を行う。
期待できる成果	障がいのある人が農業に対する理解を深めることができる。	先進的な取り組みを学ぶことで、取組内容の改善を図ることができる。また、役割分担を行うことで、主体的に取り組むことができる。	農地の有効活用及び農業を活用した雇用機会の拡大、販売による地域等への障がいの理解啓発を推進することができる。
進捗状況	複数事業所において、農業の体験を実施した。	事業所において、農作物の栽培及び収穫、販売を実施した。	事業所において、農作物の栽培及び収穫、販売を実施。
自己評価	B	B	B
自己評価の理由	複数事業所において取組が開始されたため。	事業所において、農作物の栽培及び収穫、販売が開始されたため。	事業所において、農作物の栽培及び収穫、販売が継続されているため。
二次評価	A	B	
コメント	平成27年度の目標からすると目標は達成しており進んでいるため、2次評価はAとする。		

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担 当	就労支援部会	関係課	福祉課
項目	9 就労支援コーディネーターの設置		
事業内容	就労に関する相談や支援を行ったり、障がいの特性を理解し、関係機関と連携しながら、本人と事業所とのつなぎ役となる「就労支援コーディネーター」を配置します。		
実施時期	前期	後期	○
年度ごとの目標	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度
	既存の仕組み等現状を踏まえ、課題の整理を行う。	関係機関との調整を行う。	具体的な配置方法等の検討を行う。
期待できる成果	各種社会資源の把握ができる。	就労支援機関と具体的に協議を行うことにより、就労支援コーディネーターの設置方法等について検討することができる。	不足している役割等を踏まえ、就労支援機関と具体的に協議を行うことにより、就労支援コーディネーターの設置方法等について検討することができる。
進捗状況	各種機関等における既存の仕組み等、現状の社会資源について把握することができた。	関係機関の主たる役割を整理することで、不足している役割等を把握することができた。	就労支援コーディネーターの設置方法について関係機関と協議を行った。
自己評価	B	B	B
自己評価の理由	部会内にて現状の社会資源について把握でき、課題を整理することができたため。	関係機関の主たる役割を把握し、不足している役割等を把握することができたため。	平成30年度より基幹相談支援センターに設置予定として協議を進めることができたため。
二次評価	B	B	
コメント	国の動向を注視すること	既存の社会資源との役割分担を考慮すること	

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担当	就労支援部会		関係課	人事課、福祉課
項目	10 市役所での就労体験の実施			
事業内容	就労支援施設等と協力しながら、施設外就労を活用するなどして、市役所で軽易な業務が体験できる機会を創出します。			
実施時期	前期	○	後期	継続
年度ごとの目標	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	
	市役所で障がいのある人へ依頼できる作業内容について調査する。	数回の施設外就労を実施する。	定期的に施設外就労を実施する。	
期待できる成果	依頼可能な作業を把握することにより、事業所へ作業一覧を提示することができ、取り組みやすくなる。	障がい者の就労体験の場を増やすことができる。	障がい者の就労体験の場を増やすことができる。	
進捗状況	調査を実施することができなかった。	平成28年12月より、市役所福祉部内にて施設外就労を定期的に実施。	福祉部内でながふく就労体験を毎月実施している。	
自己評価	C	A	C	
自己評価の理由	具体的な実施方法や作業範囲を決定できなかったため、調査を実施することができなかった。今後、施設外就労の趣旨・目的を整理し、改めて調査を実施したい。	平成28年12月より、市役所福祉部内にて施設外就労を定期的に実施しているため。	市役所全体での就労体験を開始することができなかったため。今後、市役所各課へ本事業についての説明会を実施し、就労体験の場を増やしていきたい。	
二次評価	C	A		
コメント	事業所の意向を聞きながら、内容等を早急に決定すること。			

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担当	関係課		関係課	福祉施策課
項目	11 支え合いマップづくり			
事業内容	支え合いマップづくりをとおして、地域にどんな困っている人がいるのか、どのような人のつながりがあり、支え合いが行われているかを再確認し、地域ごとに見守り体制の充実を図ります。			
実施時期	前期	継続	後期	継続
年度ごとの目標	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	
	順次支え合いマップづくりを行う。	継続	継続	
期待できる成果	地域にどんな困った人がいるのか、どのような人のつながりがあり、支え合いが行われているかを確認、共有することで地域の見守り、支え合いの体制が構築される。	同左	同左	
進捗状況	平成26年度、27年度において、各4地区でマップづくりを行い、地域問題解決に向けた取組みを継続している。	平成28年度において、6地区において、地域課題解決に向けた話し合いと取組を継続している。	既存6地区は市民主体へ移行し、内2地区で取組の実施を開始した。残り4地区でも話し合いが継続している。また、新たに2地区で話し合いの活動を開始した。	
自己評価	C	C	B	
自己評価の理由	地域住民による自主運営を目指しているが、未だ市のサポートが必要である。自主活動に向けて改善の検討が必要である。	地域住民による自主運営を目指しているが、未だ市のサポートが必要である。自主活動に向けて支援の検討が必要である。また、新たな地区でマップづくり策定の検討が必要である。	地域住民の自主運営に移行するための支援を行い、既存6地区は市民主体の活動へと移行した。また新たに2地区の活動を開始した。	
二次評価	B	C		
コメント	支え合いマップづくりは実施できているため、2次評価はBとする。			

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担当	関係課		関係課	たつせがある課、福祉課
項目	12 障がいのある人と地域の人とが交流できる場の提供			
事業内容	地域の人と交流する場として整備している地域共生ステーション等において、障がいのある人と地域の人とが積極的に交流できる取組を実施します。			
実施時期	前期		後期	○
年度ごとの目標	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	
	-	-	-	
期待できる成果			地域住民が集まる場所を取組を通じて、地域でどのような支援が出来るのかを考える機会となる。	
進捗状況	「子育て・いきがい・ケア」の3つのテーマにあわせて、地域住民が取組プログラムを行っており、その中に障がいのある人と交流できる取組が含まれている。	引き続き3つのテーマにあわせて、地域住民が取組プログラムを行っており、その中に障がいのある人と交流できる取組が含まれている。	共生ステーションは誰でも気軽に立ち寄れる場所であり、障がいのある人も気軽に立ち寄れる場を提供している。	
自己評価	B	B	B	
自己評価の理由	様々な市民提案のプログラムが行われているため。	継続的に、様々な市民提案のプログラムが行われているため。	引き続き、様々な市民提案のプログラムが行われているため。	
二次評価	B	B		
コメント				

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担 当	福祉サービス支援部会	関係課	福祉課
項目	13 移動支援の支援員の人材育成		
事業内容	市町村事業である移動支援の支援員についての養成研修の実施や、市独自の認定制度設けるなど、障がいのある人の移動を支援する人材の育成を図ります。		
実施時期	前期	○	後期
	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度
年度ごとの目標	作業部会を設置する。	移動支援のニーズ等調査を実施し、本市の移動支援事業のあり方について協議・決定する。	本市の移動支援事業の取組について決定する。
期待できる成果	具体的な内容について、集中的に取り組み、事業の着実な進行が期待できる。	現在の需要がどの程度あるか知ることにより、今後の移動支援のあり方について具体的に協議できる。	課題の解決が期待できる。
進捗状況	作業部会を設置し、第1回作業部会を開催した。そこで、今後の取組等について確認できた。	市内の移動支援事業所でヒアリングを開催した。そこで、現状と課題について確認できた。	作業部会を開催し、長久手市移動支援事業従業者養成研修の実施内容について協議した。
自己評価	B	B	B
自己評価の理由	作業部会を設置し、第1回を開催することができたため。	移動支援事業所でヒアリングを実施することができたため。	平成30年度より長久手市移動支援事業従業者養成研修を実施予定のため。
二次評価	B	B	
コメント			

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり

ながふく障がい者プラン重点施策 進行管理シート

担当	関係課		関係課	福祉課、長寿課
項目	14 成年後見制度の普及啓発及び理解促進			
事業内容	尾張東部成年後見センターと連携しながら、今後さらなる制度の周知徹底を図り、市長申立てによる制度の利用を促進し、障がいのある人等が不利益を被るのを防ぐ取組を実施します。			
実施時期	前期	継続	後期	継続
年度ごとの目標	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	
	障がいのある人や家族へ広く周知を図る。また、市長申立てが必要な人には、制度の利用を促進する。	継続	継続	
期待できる成果	成年後見制度を利用することにより、障がい者が不利益を被ることを防ぐことができる。	同左	同左	
進捗状況	支援が必要な人には成年後見制度について周知をしている。また、尾張東部成年後見センターと連携し、講演会の開催や相談を随時受付している。	引き続き、支援が必要な人には成年後見制度について周知をしている。また、尾張東部成年後見センターと連携し、講演会の開催や相談を随時受付している。	引き続き、支援が必要な人には成年後見制度について周知をしている。また、尾張東部成年後見センターと連携し、講演会の開催や相談を随時受付している。	
自己評価	B	B	B	
自己評価の理由	支援が必要な人には、成年後見制度の案内をしているため。また、尾張東部成年後見センターと連携し、成年後見制度の周知図っているため。	支援が必要な人には、成年後見制度の案内をしているため。また、尾張東部成年後見センターと連携し、成年後見制度の周知図っているため。	支援が必要な人には、成年後見制度の案内をしているため。また、尾張東部成年後見センターと連携し、成年後見制度の周知図っているため。	
二次評価	B	B		
コメント	市民への周知だけでなく、事業所への周知も検討すること。			

評価	評価基準
完了	目標を達成した
A	目標以上に進捗している。
B	目標どおりに進捗している。
C	改善の余地あり